

令和6年度(2024年度)モニタリングシート

施設名 八王子市市民活動支援センター

視点	評価項目	6月			9月			12月			期末評価	所管課コメント	指定管理者自己評価(コメント)	
		所管課評価	所管課コメント	指定管理者自己評価(コメント)	所管課評価	所管課コメント	指定管理者自己評価(コメント)	所管課評価	所管課コメント	指定管理者自己評価(コメント)				
施設の管理・運営を安定して行うことができるか	定量的													
	支援センター会議 1回/月	B		定例で月に1度、職員全員の出席を義務付けて行っている。今年度は原則第1金曜日午後からの開催としている。	B		定例で月に1度、職員全員の出席を義務付けて行っている。今年度は原則第1金曜日午後からの開催としている。	B		定例で月に1度、職員全員の出席を義務付けて行っている。今年度は原則第1金曜日午後からの開催としている。	B		定例で月に1度、職員全員の出席を義務付けて行っている。今年度は原則第1金曜日午後からの開催としている。	
	支援センター部門会議(啓発部、情報部、ファンド部) 1回/月、広報部は隔月開催)	B		担当者ごとの会議は適宜行っている。コロナ後はグループウェアを活用したWEB会議や書面会議も活用している。	B		担当者ごとの会議は適宜行っている。コロナ後はグループウェアを活用したWEB会議や書面会議も活用している。	B		担当者ごとの会議は適宜行っている。コロナ後はグループウェアを活用したWEB会議や書面会議も活用している。	B		担当者ごとの会議は適宜行っている。コロナ後はグループウェアを活用したWEB会議や書面会議も活用している。	
施設の管理・運営を安定して行うことができるか	団体の経営方針が明確であり、きちんとした経理がされていること	管理業務の実施に係る固有の銀行口座を開設しているか 【確認資料例:銀行口座】	B		支援センターの専用口座を開設し、インターネットバンキングでタイムリーに入出金確認、支払業務を行っている。	B		支援センターの専用口座を開設し、インターネットバンキングでタイムリーに入出金確認、支払業務を行っている。	B		支援センターの専用口座を開設し、インターネットバンキングでタイムリーに入出金確認、支払業務を行っている。	B		支援センターの専用口座を開設し、インターネットバンキングでタイムリーに入出金確認、支払業務を行っている。
		資金の適正な管理と経理内容の明確化が図られているか 【確認資料例:独立した会計帳簿】	B		担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が会計システムに部門、勘定科目、金額等の入力を行い、入力の都度、口座残高との照合を行っている。	B		担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が会計システムに部門、勘定科目、金額等の入力を行い、入力の都度、口座残高との照合を行っている。	B		担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が会計システムに部門、勘定科目、金額等の入力を行い、入力の都度、口座残高との照合を行っている。	B		担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が会計システムに部門、勘定科目、金額等の入力を行い、入力の都度、口座残高との照合を行っている。
		コピー機等使用料や講座の受講料などの徴収は適正に行われているか 【確認資料例:独立した会計帳簿・日報・月報・使用料等収納(徴収)事務委託契約書・銀行口座】	B		コピー機使用料や講座の受講料等の徴収は適正に行われ、担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が検収し、会計システムに部門、勘定科目、金額等を入力している。	B		コピー機使用料や講座の受講料等の徴収は適正に行われ、担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が検収し、会計システムに部門、勘定科目、金額等を入力している。	B		コピー機使用料や講座の受講料等の徴収は適正に行われ、担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が検収し、会計システムに部門、勘定科目、金額等を入力している。	B		コピー機使用料や講座の受講料等の徴収は適正に行われ、担当者が作成した入出金伝票に上長が承認し、会計担当が検収し、会計システムに部門、勘定科目、金額等を入力している。
		収支計画が適正であること 【確認資料例:事業計画書(収支計画)・事業報告書】	B		毎月、会計担当は事業計画に基づいて、予算執行の進捗状況を確認し、その適正性を管理し、センター会議で報告している。	B		毎月、会計担当は月次決算を行い、予算に基づき、実績の進捗状況を確認し、センター会議で報告している。	B		毎月、会計担当は月次決算を行い、予算に基づき、実績の進捗状況を確認し、センター会議で報告している。	B		毎月、会計担当は月次決算を行い、予算に基づき、実績の進捗状況を確認し、センター会議で報告している。
	管理運営がきちんとできる職員体制や研修体制がとれていること	業務を実施するにあたり、適切な人員配置や育成がなされているか 【確認資料例:事業計画書(人員配置計画)・事業報告書・研修報告書・実地調査】	B		職員各人の能力や希望を尊重し、適正に人員配置をしている。また、適宜、希望や担当に応じて外部研修などにも派遣している。	B		職員各人の能力や希望を尊重し、適正に人員配置をしている。また、適宜、希望や担当に応じて外部研修などにも派遣している。	B		職員各人の能力や希望を尊重し、適正に人員配置をしている。また、適宜、希望や担当に応じて外部研修などにも派遣している。	B		職員各人の能力や希望を尊重し、適正に人員配置をしている。また、適宜、希望や担当に応じて外部研修などにも派遣している。
		給与の支出が適切に行われているか 【確認資料例:給与規程・賃金台帳】	B		規程に基づき給与支払い担当者が確認し、上長への報告、会計責任者の確認と、適正に行っている。賃金台帳も適切に管理している。	B		規程に基づき給与支払い担当者が確認し、上長への報告、会計責任者の確認と、適正に行っている。賃金台帳も適切に管理している。	B		規程に基づき給与支払い担当者が確認し、上長への報告、会計責任者の確認と、適正に行っている。賃金台帳も適切に管理している。	B		規程に基づき給与支払い担当者が確認し、上長への報告、会計責任者の確認と、適正に行っている。賃金台帳も適切に管理している。
	施設の管理運営を安定して行う能力を有しているか	業務の一括委託が行われていないか 【確認資料例:第三者への一部事務委託に関する承諾書・事業報告書・実地調査・会計帳簿】	B		専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。	B		専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。	B		専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。	B		専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。
					専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。	B		専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。	B		専門性の高い業務(ICT、法務関係など)を一部第三者に委託しているが、毎年契約書を整備し、市への報告をして承諾書をいただいている。	B		

令和6年度(2024年度)モニタリングシート

施設の運営において公共性、公平性、公正性が図られているか	定量的	開館日数 307日/年 通常休館日 48日/年 月曜振替休館日 10日/年										B	開館日数 307日 通常休館日 48日 月曜振替休館日 10日	
	定性的	施設の公共性、公平性について継続性が保たれているか 【確認資料例: 条例、規則・日報、月報・事業報告書】	B	開館日数、開館時間は市との協定に基づき厳守している。	B	開館日数、開館時間は市との協定に基づき厳守している。	B	開館日数、開館時間は市との協定に基づき厳守している。	B	開館日数、開館時間は市との協定に基づき厳守している。	B	開館日数、開館時間は市との協定に基づき厳守している。	B	開館日数、開館時間は市との協定に基づき厳守している。
		文書の管理・保存が適切に行われているか 【確認資料例: ファイル基準表(なければそれに準ずるもの)・実地調査】	B	文書保存・管理規定、個人情報保護マニュアルなどを整え、施設した文書類で適切に保管している。	B	文書保存・管理規定、個人情報保護マニュアルなどを整え、施設した文書類で適切に保管している。	B	文書保存・管理規定、個人情報保護マニュアルなどを整え、施設した文書類で適切に保管している。	B	文書保存・管理規定、個人情報保護マニュアルなどを整え、施設した文書類で適切に保管している。	B	文書保存・管理規定、個人情報保護マニュアルなどを整え、施設した文書類で適切に保管している。	B	文書保存・管理規定、個人情報保護マニュアルなどを整え、施設した文書類で適切に保管している。
		施設の保全・管理が適切に行われているか 【確認資料例: 事業報告書・実地調査】	B	会議室予約システム(団体向け)に機能追加(複数コマの予約可)を行い、システム全体のテストを開始した。システムの利用ガイドを作成し、システム利用開始の告知とともに登録団体に配布した。その他の施設管理・保全に関するも、清掃安全確認など適切に行っている。	A	会議室の利用予約は電話または窓口のみで受付していたが、会議室予約システムの導入によりインターネット上からいつでも予約できるようになり、利用者の利便性を高め、DXの推進に寄与したことについて評価する。	A	団体向け会議室予約システムの運用を開始した(8/15)。利用促進のため、電話や対面での予約希望団体には、口頭で利用を促した。センター内にも予約できるPOPとタブレットを用意し、簡単に予約できるよう工夫した。システムの軽微な不具合対応を行った。	A	会議室予約システムの導入及び利用促進により、利用者の利便性を高め、DXの推進に寄与したことについて評価する。	A	会議室予約システムの導入に向けて、引き続き会議室予約システムの利用を促した。また、更なる利用促進のため2025年4月1日より、電話による会議室受付時間を開館日の13:00~17:00に制限することとし、周知を開始した。利用率は上昇している。	A	会議室予約システムの導入及び利用促進により、利用者の利便性を高め、DXの推進に寄与したことについて評価する。
備品の管理が適切に行われているか 【確認資料例: 備品台帳・実地調査】	B	備品の管理は備品管理台帳をつくり新規、廃棄など適時更新し適正に管理している。市による実地調査にも適正に対応している。	B	備品の管理は備品管理台帳をつくり新規、廃棄など適時更新し適正に管理している。市による実地調査にも適正に対応している。	B	備品の管理は備品管理台帳をつくり新規、廃棄など適時更新し適正に管理している。市による実地調査にも適正に対応している。	B	備品の管理は備品管理台帳をつくり新規、廃棄など適時更新し適正に管理している。市による実地調査にも適正に対応している。	B	備品の管理は備品管理台帳をつくり新規、廃棄など適時更新し適正に管理している。市による実地調査にも適正に対応している。	B	備品の管理は備品管理台帳をつくり新規、廃棄など適時更新し適正に管理している。市による実地調査にも適正に対応している。		
施設設のサービスの向上、利用者の増加等を図る方策が図られているか	定量的	広報紙発行 3,500部/隔月(奇数月)	B	今期は5月に発行。NPOフュージョン長池を特集。3頁では新スタッフ紹介はじめセンターの講座を紹介。4頁では「はちこみねっ」と紹介している。メールマガジンは毎月発信している。	B	今期は7月、9月に発行。7月号は「支援センター会議室のWEB予約方法」9月号は「スポーツを通して豊かな共生社会を目指して」新しいNPO団体の紹介をとりあげた。	B	今期は11月に123号を発行。はちおうしNPOフェスティバル2024を特集。団体への参加を促す為各団体の名前と写真を紹介した	B	12月1日~31日に施設利用者満足度調査を行い、267の回答を得た。今後詳細な集計等を行うが、98.8%の満足度となった。	B	毎年調査しているが、毎回高い満足度を維持している。総合満足度は98.8%、スタッフの対応については99.5%の満足度だった。一方で、WiFi環境やリースベースの拡大など、更なる利便性向上の要望も寄せられた。		
	定性的	利用者等からの相談及び苦情に適切に対応しているか 【確認資料例: 相談、苦情をまとめた整理帳簿】	B	相談には随時、内容ごと適切な担当者を決めて対応している。相談内容の記録は都度相談カードにまとめ、スタッフで共有し後日の相談に対応できるようにしている。苦情に関しては、丁寧に苦情内容を聞き真摯に対応している。苦情に関しても記録カードを作成しスタッフ間で共有し、整理している。	B	相談には随時、内容ごと適切な担当者を決めて対応している。相談内容の記録は都度相談カードにまとめ、スタッフで共有し後日の相談に対応できるようにしている。苦情に関しては、丁寧に苦情内容を聞き真摯に対応している。苦情に関しても記録カードを作成しスタッフ間で共有し、整理している。	B	相談には随時、内容ごと適切な担当者を決めて対応している。相談内容の記録は都度相談カードにまとめ、スタッフで共有し後日の相談に対応できるようにしている。苦情に関しては、丁寧に苦情内容を聞き真摯に対応している。苦情に関しても記録カードを作成しスタッフ間で共有し、整理している。	B	相談には随時、内容ごと適切な担当者を決めて対応している。相談内容の記録は都度相談カードにまとめ、スタッフで共有し後日の相談に対応できるようにしている。苦情に関しては、丁寧に苦情内容を聞き真摯に対応している。苦情に関しても記録カードを作成しスタッフ間で共有し、整理している。	B	相談には随時、内容ごと適切な担当者を決めて対応している。相談内容の記録は都度相談カードにまとめ、スタッフで共有し後日の相談に対応できるようにしている。苦情に関しては、丁寧に苦情内容を聞き真摯に対応している。苦情に関しても記録カードを作成しスタッフ間で共有し、整理している。	B	年間を通じ、相談には随時、内容ごと適切な担当者を決めて対応している。相談内容の記録は都度相談記録のシートに追記し、過去の相談者が来訪した場合には従事機関のカルテのように検索して過去の経過を見ることができるようにしている。苦情に関しては、丁寧に苦情内容を聞き真摯に対応している。苦情に関しても記録カードを作成しスタッフ間で共有し、整理している。
施設設のサービスの向上、利用者の増加等を図る方策が図られているか	定量的	電気使用量及び水道使用量の過去3年【令和3年度(2021年度)~令和5年度(2023年度)】平均比100%以下/年										B	電気 93.6% (R5年度使用量:17,236kwh) 水道 114.3% (R5年度使用量:109m) ※3か年平均使用量 電気:18,408.7kwh 水道:95.3m ³	

令和6年度(2024年度)モニタリングシート

事業の達成目標が明確で、具体的な事業計画に基づいて事業が行われているか	アクティブ市民塾 6回/年	B	5月22日にこども食堂などを運営する「カフェ北野」を訪ねて活動の紹介をした。これをきっかけにボランティアを希望する人、子ども食堂や子どもの居場所の立ち上げを考える人、参加者同士の活動連携も生まれた。	B	・7月18日に八王子国際協会の活動を紹介した。10代の参加者もあり、これをきっかけに4名が会員登録した。 ・8月18日にすずしる22の活動を紹介します。香場農園での援農体験をした。申込者が多く、参加できなかった方は別日に体験することになった。すずしる22と香場農園に興味をもち、会員登録(2名)・連携(4名)・援農ボランティア継続(5名)の希望者があり、今後の活動につながった。	B	11月30日に八王子の里山文化を伝承している「わら織工の会」の活動を紹介します。定員20名より多くの参加希望があり、団体の活動を広く周知することができた。	B	・1月21日にゆるからの会の活動を紹介します。年齢層は高かったが、シニア世代にゆるい空手を通じての居場所づくりと健康を提供する活動を紹介します。 ・3月4日にアクティブティア研究会の活動を紹介します。伝承玩具の意味や、指を使うことの大切さについて学び、伝承玩具を通じてのシニアの社会活動を推進する団体として紹介した。
	NPOパワーアップ講座 全6回/年			B	市民活動団体の組織運営強化や広報、資金調達などに役立つ連続講座を毎年開設。第1回は9/23に「NPOの一生」というテーマで開催。NPOの立ち上げから終了までを学び、NPOの活動とは何か、を改めて考えていただくきっかけの場となった。 第2回は9/20に「NPOのマネジメント」をテーマで開催。あそびのある組織をつくることで人間関係を円滑にし、ミッションを共有できることをワークを通じて学んだ。	B	第3回は10/18に「NPOの課題解決」というテーマで開催。団体の活動がどの立ち位置にあるのかを確認し、課題をどう解決するかを考え、ビジョン・ミッションにつながる軸を明確にした。 第4回は11/14「資金を集める」をテーマで開催。何のために資金を集めるのかや、申請書づくりの具体的な考え方を学び、ワークで団体の活動を構造的に整理し、説得力のある説明の練習をした。 第5回は12/20に「団体の信用を得る」をテーマで開催。共感・信頼してもらうことの大切さを学び、団体が組織評価の基準をクリアしているかチェックした。	B	第6回は1/17に「連携によるNPO強化」をテーマで開催。プロボノとの連携・他団体との連携・行政との連携について事例の紹介のもと、どのようなプロボノ/団体と連携したいかを考えるワークを行った。
	市民活動実践講座 1回/年			B	市民向けに、NPOや市民活動の普及や実践となるような講座を行なう。ここ数年は小中高生にも市民活動を知ってもらい、体験してもらうことを目的とし、夏休みに開催している。今年はいまさら聞けない地域温暖化〜これらに関わろう私達の取り組み」をテーマに、「中央地区環境市民会議」を講師に迎え実施した。			実践講座は市民が市民活動の実践に繋がるようにとの目的で開催している。ここ数年は小中学生にも参加し易い内容にして夏休み中に開催していたが、今年度は参加者が少なかった。今後は、小中高生に加えて大人も一緒に楽しめる講座を夏休みではない時期に開催したい。	
	市民活動支援講座 6回/年	B	支援講座では「今すぐ直接役立つ」講座を支援センター職員自ら講師を務める形で企画をしている。4月は「機材活用ノウハウ講座」、6月は「手描きチラシの作り方」を開催。どのテーマも申し込みが殺到し活動に役立つ講座であったと好評だった。	B	支援講座では「今すぐ直接役立つ」講座を支援センター職員自ら講師を務める形で企画をしている。8月にはNPOフェスティバルにも役立つ「イベントやセミナーの空間デザイン〜効果的な机の配置やバナーの作り方〜」を実施。 9月には「プロボノを活用しよう〜皆さんの困りごとお助けします!」でプロボノの活用の仕方を紹介した。	B	今期は10月26日に「Googleドライブを活用しよう」を開催した。団体活動に役立つGoogleドライブの使い方を紹介し、その後メンバーどうしの情報共有に役立つ共同編集を体験するワークを行った。	B	1月26日に「市民活動をひろめる動画をスマホで作って公開しよう!」を開催した。参加者の多くは、初心者が多かったが、自分が所属するグループの広報活動の手段として動画作成を考えており、一致している動画・映像による事業紹介等に取り組みきっかけづくりになったと思われる。これにより年間6回の支援講座が完了し、本年度は市民活動団体へのITやDX的なノウハウの講座が多かった。
	八王子コミュニティ活動応援サイト「はちコミねっと」の適正な管理団体登録・承認作業等/随時	A	リニューアル後の「はちコミねっと」について、継続的な操作指導によりサイトの活用促進に努め、年度当初に行う団体登録承認手続きを利用者に負担のないよう工夫し実施したことを評価する。	基本講習会を月1回、個別相談会(予約なし)を月3回、日程調整をした上での個別相談、電話による個別相談、メールによる個別相談を引き続き行った。基本講習会の内容は、参加者のPCスキルによって臨機応変に調整した。新規登録団体、再表示団体(新システムへの移行時、宣誓提出時)、登録抹消団体に対応した。今年度の「定期的な宣誓事項と登録内容確認のお願い」を開始し、6月末締切とした。今年度からは、Web回答、書面回答で受け付け、メールやHP等での声掛けも行き、効率よく回収できた。	A	リニューアル後の「はちコミねっと」について、継続的な操作指導によりサイトの活用促進に努めたことを評価する。	A	リニューアル後の「はちコミねっと」について、継続的な操作指導によりサイトの活用促進に努めたことを評価する。	A
「ゆめおりファンド」人財による団体支援 3団体以上/年	B	今年度よりこれまでの人財(プロボノ)支援に加えて、より軽微な「プチプロボノ」も対象にすると同時に、団体運営全般に関わるコンサル的な「伴走支援」も実験的に「行うこと」にした。すでに団体から相談される「伴走支援」も実験的に「行うこと」にした。それに伴ってプロボノ/登録者の充実と整理を行う。プロボノ/相談が新たに数団体からあり、対応中である。	今年度よりこれまでの人財(プロボノ)支援に加えて、より軽微な「プチプロボノ」も対象にすると同時に、団体運営全般に関わるコンサル的な「伴走支援」も実験的に「行うこと」にした。それに伴ってプロボノ/登録者の充実と整理を行う。プロボノ/相談が新たに数団体からあり、対応中である。	B	今年度よりこれまでの人財(プロボノ)支援に加えて、より軽微な「プチプロボノ」も対象にすると同時に、団体運営全般に関わるコンサル的な「伴走支援」も実験的に「行うこと」にした。それに伴ってプロボノ/登録者の充実と整理を行う。プロボノ/相談が新たに数団体からあり、対応中である。	B	企業との連携を図るため、2社とのミーティングを実施した。協力企業を増やすため、今後企業訪問も検討する。人財支援では継続中の1団体に追加、別の1団体からも要請あり。今後ファンドサービスを受ける条件を、GAMPAN登録を必須とせず、はちコミねっと登録(センター登録)で可とした。3月にプロボノ/カー交流会を実施するための準備を行っている。	B	今年度は人財支援としてプロボノの強化を図ってきた。相談業務と連携し、相談内容によってはプロボノ/「伴走支援」にもつながる仕組みを整えた。プロボノ/カーの認知促進を行い、3月にプロボノ/カー交流会を実施。より適材との連携ができるような仕組みを整えた。今年度は、プロボノ/相談8件、伴走支援に就いた事例3件、プロボノ/活用実績はなし。

定量的

令和6年度(2024年度)モニタリングシート

<p>NPOフェスティバルの開催 1回/年</p>	<p>B</p>	<p>第3四半期(10月6日)開催に向けて、参加団体を募集し、6月23日に参加団体に向けた説明会をオンラインで開催した。あわせてボランティアの募集も開始した。</p>	<p>B</p>	<p>第3四半期(10月6日)開催に向けて、参加団体を確定し、数度による説明会を開催した。あわせてボランティアも募り、ボランティア説明会も開催、チラシや当日パンフレットの準備、各行政機関への各種届け出など、開催に向けての準備を行った。</p>	<p>B</p>	<p>10月6日(日)に開催。今年度は東京たま未来メッセ展示室全室に加え、旧保健所跡の「えきまえテラス」も会場とした。参加団体は出展・出店53団体、舞台発表12団体、計65団体の参加となった。東京工科大学、法政大学をはじめ多くの学生ボランティアの参加もあり、ボランティアの数は70名、来場者は2,000名超(関係者含む)で賑わった。えきまえテラスと一体とした会場設定も人の流れが生まれ効果的だった。</p>	<p>B</p>	<p>10月6日(日)に開催した。今年度は「えきまえテラス」も会場に加え、盛況に終わることができた。参加団体は出展・出店53団体、舞台発表12団体、計65団体。今回は学生団体の参加が4団体あった。多くの学生ボランティアの参加もあり、ボランティアの数は70名、来場者は2,000名超(関係者含む)であった。えきまえテラスと一体とした会場設定も人の流れが生まれ効果的だった。</p>
<p>交流会の開催 2回/年</p>	<p>A</p>	<p>交流会の実施により多くの市民活動団体に意見交換の場を提供し、交流・連携を促進したことを評価する。今後は、新たな分野での実施に期待する。</p>	<p>A</p>	<p>7月7日に子育て関係交流会を開催し、30名(16団体+一般市民)が参加した。前年に「まほろの環うき」八王子冒険道の会「かたつむり」には「居場所」をテーマに話していただき、後半にワールドカフェ形式で、今までに起こした課題解決のため、情報共有と意見交換を行った。活動場所提供と共同企画・イベントを開催したい団体があり、検討することとなった。資金作りの情報提供があり、発達障がいのあるお父さんを持つ市民2名が「かたつむり」とつながり、後日相談することとなった。また、この分野で団体を立ち上げた12名が参加し、今後相談のために支援センターを来所する予定など、多くの連携が生まれた。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>交流会の実施により多くの市民活動団体に意見交換の場を提供し、交流・連携を促進したことを評価する。今後は、新たな分野での実施に期待する。</p>	<p>2月9日開催の「NPO八王子会議」後半で交流会を実施。今回は75名が参加し、交流会では6つのテーマ「テーブル」に分かれ、課題と解決策について意見交換した。幅広い年齢層が参加し、地域活動と市民活動団体の連携、新規団体の誕生、学生の地域参加等多くの成果が確認できた。2024年度はテーマ別交流会と1日出張の地域交流会で情報収集、情報共有、新しいつながりができ、センター来所相談やセンター登録にもつながった。次年度も引き続き実施する予定である。</p>
<p>はちおうしNPO会議 1回/年</p>	<p>B</p>	<p>2月9日に開催。予定していた参加人数をはるかに超えた75名(31団体+行政+市民支援組織+一般市民や学生)が参加し、年齢層も20代から80代と幅広かった。今回、市民活動団体が抱えている課題を再確認・共有し、協力、連携の実例をあげ、参加者との意見交換や提案等で課題解決へ向けた対応への取り組みを促した。前半のプレゼンテーションでは、登壇者が行っているサポートに対する考えと想いが伝わり、学ぶことが多かった。後半の交流会で活発な意見交換ができ、新たなつながりと協力の広がりも生まれた。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>2月9日に開催。予定していた参加人数をはるかに超えた75名(31団体+行政+市民支援組織+一般市民や学生)が参加し、年齢層も20代から80代と幅広かった。今回、市民活動団体が抱えている課題を再確認・共有し、協力、連携の実例をあげ、参加者との意見交換や提案等で課題解決へ向けた対応への取り組みを促した。前半のプレゼンテーションでは、登壇者が行っているサポートに対する考えと想いが伝わり、学ぶことが多かった。後半の交流会で活発な意見交換ができ、新たなつながりと協力の広がりも生まれた。</p>	
<p>センター1日出張の実施 4回/年</p>	<p>B</p>	<p>6月9日西部地区(川口市市民センター)で市民活動支援センターを1日出張開設した。はちこみねとの操作説明や登録関係、ゆめりファンドの案内に加え市民活動全般に関する相談や身に交流会なども行った。3年目となる「センター1日出張」の企画だが構築にセンターの周知に貢献している。</p>	<p>B</p>	<p>9月14日に北部地域1日出張を実施した。会場が道の駅八王子滝山で、27名の来場があった。一般市民、団体、高齢者あんしん相談センター等が来場し、センターと地域で活動している団体の周知ができ、情報提供、情報共有と意見交換ができた。これをきっかけに、①団体が誕生し、センター登録した②健全活動の連携(3団体)ができた③子ども食堂関係で連携ができ、今後センターもサポートする4相談案件があり回答済5件、他4件継続対応。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>12月7日に西南部地域で実施した。団体を立ち上げたい方(2)、登録を検討する団体(2)、非公開団体(1)、社会貢献活動をしたい方(3)、はちこみねと相談(2)、連携したい団体(8)、ファンド相談(1)、団体運営相談(2)があり、交流会では情報や課題を共有でき、多数の連携・サポートの話しも生まれた。実施後、ファンド相談に来た団体がプロボノ支援につながった。団体のコア企画2か所が次年度に実施予定。1団体は当日参加していた自治会のサポートをすることとなった。他地域からの要望もあり、2月には東南部地域で実施予定。</p>	<p>B</p>
<p>定性的 資源の有効活用など環境に配慮した管理運営がされていること</p>	<p>B</p>	<p>「環境にやさしい八王子市役所エコアクションプラン」及び「八王子市役所環境マネジメントシステム」に基づく、環境に配慮した管理・運営が行われているか【ヒアリング等で確認】</p>	<p>B</p>	<p>使用していない部屋やエリアのエアコンや照明を小まめにチェックするなど節電には常に注意している。裏紙の再利用や古紙の資源回収、環境に優しい消耗品の購入など、環境に配慮した管理・運営に努めている。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>使用していない部屋やエリアのエアコンや照明を小まめにチェックするなど節電には常に注意している。裏紙の再利用や古紙の資源回収、環境に優しい消耗品の購入など、環境に配慮した管理・運営に努めている。</p>	

令和6年度(2024年度)モニタリングシート

個人情報保護管理及び危機管理が図られているか	定量的	防災訓練 1回/年												7月14日にNPO法人国際学生ボランティア協会の学生の協力のもと、学生たちが多くの災害地、被災地支援等で培った知見をもとに企画した防災訓練を、センタースタッフや希望する市民活動団体とともに行った。センター内の避難経路や防災用具を確認することは勿論のこと、実際の災害を想定しての行動を確認した。						11月8日にファルマ802ビル会員の防災訓練に参加し、同時にセンター内部での災害非常時における役割分担を確認した。	B			7月14日にNPO法人国際学生ボランティア協会の学生の協力のもと、学生たちが多くの災害地、被災地支援等で培った知見をもとに企画した防災訓練を、センタースタッフや希望する市民活動団体とともに行った。センター内の避難経路や防災用具を確認することは勿論のこと、実際の災害を想定しての行動を確認した。他にも11月にはファルマビル会員の防災訓練に参加。ここ数年は年2回の防災、災害訓練を行っている。		
	定性的	個人情報の取り扱いが適切であること	個人情報の適切な管理のため必要な措置が講じられているか 【確認資料例：マニュアル・事業計画書（事業計画）・事業報告書】	B	個人情報保護マニュアルを策定し、定期的に改訂を行っている。これに基づき個人情報保護に関しては常に注意を払い管理している。	B								個人情報保護マニュアルを策定し、定期的に改訂を行っている。これに基づき個人情報保護に関しては常に注意を払い管理している。定期的に個人情報取り扱いについての講習会を実施している。	B									個人情報保護マニュアルを策定し、定期的に改訂を行っている。これに基づき個人情報保護に関しては常に注意を払い管理している。定期的に個人情報取り扱いについての講習会を実施している。今回はe-ラーニングでも行った。		
		緊急(防火・防犯等)対応等危機管理体制が取られていること	指定管理者が加入しなければならない保険に加入しているか 【確認資料例：保険証券】	B	適切な保険に加入し、毎年見直しをしている。	B									適切な保険に加入し、毎年見直しをしている。	B										適切な保険に加入し、毎年見直しをしている。
			事故や災害発生時の緊急時の対応が適正に行われたか。また、適正に行えるよう体制が整っているか。 【確認資料例：マニュアル・事業計画書（事業計画）・事業報告書】	B	緊急時の緊急連絡網を整備している。また、事故や災害発生時、緊急時の役割分担を決め、防災訓練時に確認している。	B									緊急時の緊急連絡網を整備している。また、事故や災害発生時、緊急時の役割分担を決め、防災訓練時に確認している。また、管理ビル指導の自主防災会にも加入して定期的な会議に出ている。	B									緊急時の緊急連絡網を整備している。また、事故や災害発生時、緊急時の役割分担を決め、防災訓練時に確認している。また、管理ビル指導の自主防災会にも加入して定期的な会議に出ている。	

期末総合評価	B
所管課コメント	<p>令和6年度(2024年度)は、5年間の指定管理期間の4年目となった。市民活動支援センターの指定管理者である特定非営利活動法人八王子市民活動協議会は、その実績や経験を活かしながら、基本協定及び年度協定に基づいた適正な施設の管理運営を行ったといえる。利用者への満足度調査では、各項目において高い満足度を維持しており、全体的な満足度は「満足」「やや満足」が98.8%を占め、利用者にとって満足度の高いサービスを提供している。</p> <p>令和6年度(2024年度)は、テーマ別の交流会やセンター1日出張での地域交流会等において、市民活動団体同士をつなぐ取組みが行われ、市内の市民活動団体により新たな協力関係の構築や情報交換等が活発に行われた。これは、団体間の連携の不足という市民活動が抱える課題に対して寄与するものであり、評価できるものである。また、令和5年度(2023年度)より構築を進めてきた会議室の予約システムの運用開始は、デジタルの活用により利用者の利便性を向上するものとして評価できる。</p> <p>令和7年度(2025年度)も引き続き市民の市民活動への関心を高める企画や団体間の連携を図る事業の実施、相談体制のより一層の強化等により、中間支援組織として市民活動の促進を図るとともに、地域を包括的につなぐコーディネーターとして、本指定管理期間における事業計画に沿った事業の確実な遂行を期待する。</p>